

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	青森県
推進地域名 (再委託先)	つがる市

1 事業推進の体制

実践中心校	木造中学校
協力校	向陽小学校
関係機関	つがる市役所（地域振興対策室、健康推進課）、J A（ごしょつがる、にしきた）P T A、食生活改善推進委員

2 各都道府県教育委員会の取組

(1) 食育の方針（取組内容）

- ・地場産物を活用し、児童生徒の健康の保持増進に向けた望ましい食習慣を形成するための方策
- ・食育推進検討委員会の開催（推進地域における食生活や、食習慣等に関する児童生徒の実態についてのアンケート調査の実施）

(2) 実践推進地域への指導・支援内容等

- ・児童生徒の食生活の実態を踏まえ、計画的、継続的に指導できるよう、校内指導体制を整備し、総合的な食に関する指導計画を作成できるよう支援。
- ・学校給食を食に関する指導の生きた教材として活用できるよう、教材開発の支援。
- ・児童生徒に食に関する知識や能力等を発達の段階等に応じて総合的に身に付けさせるため、評価指標について指導。

3 具体的な取組等について

テーマ1	学校における食に関する指導の充実を図るための取組
評価指標	つがる市や青森県の特産物について、理解できた生徒の割合
効果	教育活動全体を通して食に関する指導を行ったことで、食の大切さや地場産物への興味・関心が高まった。 【食生活アンケートより】（H26年1月実施） Q 食事をとることを大切だと考えていますか？ 「はい」と答えた生徒…93%

(取組状況)

木造中学校における取組

- ①食に関する指導の全体計画及び年間指導計画の作成
- ②食育掲示板の活用～栄養教諭が、毎月、掲示板を通して食に関する情報を提供する。



③給食委員会による食育ポスター掲示～委員会活動として、食に関するポスターを作成し掲示する。

④給食時における巡回指導～栄養教諭による学校給食についてのミニ授業（全学級）

⑤つがるちゃんと一緒に、つがる市産のトマトについての食育指導



⑥食に関する指導～「朝食について考えよう」

⑦学校保健大会公開授業



【グループ活動：栄養バランスのよい朝食とは？】

【自分の朝食の課題点を見つけよう！】

⑧家庭科調理実習～家庭科担当教諭・栄養教諭とのT・T授業の実施

⑨市内近隣校（向陽小）での食に関する指導への協力

⑩食生活アンケートの実施

テーマ2	食を大切にする心を育てるための体験活動の充実を図る取組
評価指標	地場産物を活用した料理を、自分でも作ってみようと思う生徒の割合
効果	地場産物を食べたり、学んだりすることにより、改めて自分達の住む地域の良さを再確認できた。 【調理実習事前指導時のアンケートより】 ・地場産物という言葉の認知度…45% 【調理実習後のアンケートより】 ・地場産物を活用した料理を自分でも作ってみようと思う生徒の割合…87% ・つがる市や青森県の地場産物についての理解度…99%

（取組状況）

①地場産物についての体験学習

・地場産物（トマト）を活用した新メニューのネーミング募集、給食献立の実施



【グランプリ賞は「つがるちゃんの長いもトマト」に決定！】

②地場産物（新品種のりんご）に関する出前授業の実施



【りんごの歴史・品種・栄養等について学習後、新品種りんご「千雪^{ちゆき}」を試食】

③つがるブランドを活用した調理実習（つがる市食生活改善推進委員の協力）



【「つがるちゃん豚汁」と「千雪のコンポート」の調理実習】

④地場産物（豚肉、メロン、クリーンライス、長芋、長ねぎ、ごぼう、りんごジュース）を活用した給食献立の実施



【つがる豚のカレーライス】



【カレー最高！！】

⑤地場産物を活用した調理実習の実施（向陽小）



テーマ3	学校と家庭との連携による、食育推進のための取組
評価指標	朝食欠食率
効果	一学期当初と比較して、朝食欠食率がわずかであるが減少した。 H25. 5月実施 3.4% → H26. 1月実施 2.7%
（取組状況）	
①食育だよりの発行	
②PTA給食試食会の実施	
・献立…夏野菜カレー・牛乳・福神漬・フルーツゼリー和え	
・参加者…25名	

- ・試食会后、生徒の食生活等についてミニ講話（朝食、好き嫌い）
- ・感想…「家ではカレーに入れないかぼちゃなどが入っていて、おいしかった。」
「子どもたちが普段食べているのと同じ物を食べる機会がうれしい。」
「次もぜひ参加したい。父親ももう少し増やしたいので声がけます！」
(唯一の男性参加者)



【食育だより】



【給食試食会の様子】

テーマ 1～3 に共通する取組

評価指標

効果

（取組状況）

実践中心校における朝食の欠食や給食の残量の状況は、これまでの栄養教諭を中心とした食の指導により減りつつある。しかし、食に関するアンケートによると、朝食の栄養バランスに偏りが見られることや、市の特産物への認識があまり高くないことから、地場産品の活用を通じた学校、家庭、地域の連携による食育の推進に取り組んできた。

また、給食や調理実習を通して行なった様々な体験活動、掲示板や食育だより、新聞報道や市の広報等で、家庭や地域にも情報発信を行った。

4 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

これまでの取組により、生徒の食に対する関心が高くなっていることがわかる。特に給食には地場産品が積極的に取り入れられており、栄養のバランス面でも優れていること、また、地域の生産者の苦労や努力に支えられていることを再認識することができた。

◆アンケート結果より

- ・食に関する指導「朝食について考えよう」等の取組により、朝食欠食率（朝食をいつも食べない生徒の割合）が以下のような結果となった。

H25. 5月実施 3.4% → H26. 1月実施 2.7%

わずかではあるが、朝食欠食率は減少するなど成果が見られた。

- ・調理実習の事前・事後指導において行ったアンケート調査（H25. 12月）によると、事前指導時に、地産地消という言葉聞いたことがある生徒が45%程度と、食に関する関心、知識等は必ずしも高いとは言えなかった。

しかし、事後指導後は、つがる市や青森県の特産物について理解している生徒が99%、地場産物を活用し、自分でも調理してみようと思う生徒が87%となるなど、関心・意欲面においても成果が見られた。

◆食に関する指導体制について

- ・栄養教諭を中核とし、管理職、養護教諭、学年主任、学級担任等と協力・連携した指導体制の基盤ができた。今年度は1学年を中心とした取組が多かったが、「是非うちの学年でも！」との要望があった。
- ・学校評価において、教職員から食育に関しての理解度が高まっているとの評価をいただいたことから、これから学校全体で食育に積極的に取り組む気運の高まりを感じ取ることができた。

◆生徒について

- ・地場産物についての理解度・関心度が高まった。学級や学年単位で、短時間でも栄養教諭が指導に入ることにより、食について自分との関わりとして考える機会を設定することができた。
- ・特に「朝食の大切さ」についての指導を行なった1学年では、朝食欠食率の減少や、食に関する関心が高まった。

◆家庭、地域について

- ・市教委を中心に、食生活改善推進委員やJAの方々の協力を得て、さまざまな取組を行う

ことができた。食生活改善推進委員の方々が、今回のように学校へ協力する機会がこれまであまりなかったことから、これからも活用してほしいとの声があった。これからも地域の方々の協力を大切にしていきたい。

- ・調理実習の取組や食育だより等により、調理実習で使用したレシピを生徒や保護者の方がもらいに来るなど、家庭・地域への情報発信につなげることができた。

5 各都道府県教育委員会における事業成果の活用について

- ・栄養教諭所属校校長等連絡協議会の開催
(県内全域で効果的な指導ができる方策の検討)
- ・学校における食育実践発表会の開催

6 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- ・今年度の取組をもとに、食に関する指導の全体計画及び年間指導計画の見直しを図るとともに、生徒につけさせたい力を明確化させ、さらに計画的・継続的な指導を図りたい。
- ・食育をさらに充実させることにより、自らの食生活・運動等の習慣を振り返り、課題把握を通して、短命県からの脱却を目指したい。
- ・献立の教材化を図ることにより、日常的に食に関する指導を行うことができるよう、効果的・効率的な取組を進めたい。
- ・栄養教諭としての力量（コーディネート力・授業力等）を向上させ、さらに充実した食育の充実に努めたい。
- ・食育における縦（小・中・高）と横（学校・地域・家庭）の連携をさらに強化することにより、学校から家庭へ、さらに地域への情報発信を図りたい。
- ・食育のスポットをどこに絞るかで、連携強化をする部局・関係者等の体制が変わってくる。これまで、地場産物の活用を最重点として部局間連携等の体制整備を行ってきたが、本県の健康課題解決に向けた取組を最重点項目として取組むためには、医療関係機関との連携を強化していく必要がある。学校保健と切り離さず、より一体化した体制整備及び取組が必要である。